

RESEARCH JOURNAL OF SPORT SCIENCE
IN NARA WOMEN'S UNIVERSITY

「奈良女子大学スポーツ科学研究」 寄稿の手引き

研究年報編集委員会
1998年7月31日
(2010年1月20日改定)
(2012年2月9日改定)
(2018年2月15日改訂)
(2022年2月28日改訂)

目 次

I. 原稿の種類	1
A総説, B原著論文, C研究資料や調査報告, D 書評	
II. 原稿の採択	1
A原稿内容, B人権愛護・動物愛護	
C研究倫理, D用語やスタイル	
III. 原稿の作成に関する留意事項	2
1 原稿枚数	2
2 刷り上がり体裁	2
3 表紙の内容とその提出書式	2
A原稿内容, B提出書式	
4 表紙に関する留意点	2
A題目, B欧文抄録,	
Cキーワード, D所属機関と住所	
5 本文以降の原稿内容	3
6 本文以降の原稿の提出書式	3
Aオフセット印刷, Bページアウト,	
C使用字体, D使用プリンター	
7 本文の表記に関する留意点	4
A特殊字体, B符号, C単位, D略語, E引用	
8 図表の作成に関する留意点	6
A全般について, B図について, C表について	
9 注に関する留意点	6
10 文献一覧作成に関する留意点	6
A記載順, B書誌データ,	
C定期刊行物の表記,	
D単行本の表記	
11 欧文原稿に関する留意点	8
A全体表記	
12 チェックリストとその他の留意点	9
IV. 原稿送付と発刊までの予定	9
1 原稿送付	9
2 原稿締切り	9
3 査読システム	9
4 編集校正	9
5 発行日	9
6 別刷り	9

I. 原稿の種類

- 1 本誌に掲載される**寄稿原稿の種類**には、総説、原著論文、研究資料、調査報告、評論（書評など）があります。
 - A 「総説」とは、特定の研究領域に関する主要な文献内容の総覧ですが、その記述は単なる羅列でなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つことが必要です。
 - B 「原著論文」は、科学論文としての内容と体裁を整えているもので新たな科学的な知見をもたらすものであることが必要です。論文の構成は、欧文抄録、問題提起、目的、方法、結果、考察、結論、要約、文献の各部分から成り立っていることが必要です。ただし、人文系と自然系の論文構成にはちがひがありますので、論文の構成や見出し語はそれぞれの研究領域に応じて適切なものを用いて下さい。
 - C 「研究資料」や「調査報告」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、体育学の研究上、客観的な資料として価値を認められるものです。この場合、前述の原著論文に必要な見出し語やそれに相当する内容のすべてを含む必要はありませんが、先行研究との関連の中で、その資料を提出することの意味が明らかであり、資料そのものの説明も十分になされていることが必要です。
 - D 「書評」は、本学会研究諸分野に係る単行本の全部または一部の概要が明瞭であるとともにその内容に従った問題提起を含むことが必要です。

II. 原稿の採択

- 1 本誌編集委員会が次のような点を考慮して、**原稿の採択**を決定します。
 - A **原稿内容**が体育学およびスポーツ科学の学術研究の発展に寄与すると考えられることです。
 - B **人権擁護・動物愛護**についての配慮がなされていることです。
 - ① 被験者や被験動物の取り扱いについては、「体育学研究の研究者の倫理について（覚書）」を参照し、人権擁護、動物愛護の立場から十分注意して下さい。
 - ② 同時に論文中に、実際に配慮した点を明記して下さい。
 - C 人を対象とする研究に関して倫理審査が行われていることです。
 - ① 奈良女子大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の指針に従って、研究倫理審査を受ける必要のある研究は事前に承認を受けてください。
 - ② 承認を受けた場合は論文中に承認番号を記載して下さい。

D **用語やスタイル**について、下記の点について留意がなされていることが重要です。

- ① 文章が簡明であり、すべての人が一義的に解釈できる
- ② 題目（タイトル）が和欧両文とも研究の内容を的確に表現している
- ③ 規定どおりの欧文抄録が添えられている
- ④ 適切なキーワードが和欧両文ともにそれぞれ明記されている
- ⑤ 図表の作成が適切である
- ⑥ 注記の仕方が適切である
- ⑦ 文献の引用と文献表の作成が適切である
- ⑧ 必要以上の省略がなされていない
- ⑨ 一人称が乱用されていない
- ⑩ 過大な修飾や客観性に欠ける修飾がなされていない
- ⑪ 根拠に基づかない断定的な表現がなされていない
- ⑫ 略語や新語を用いるときには、初出時に説明がなされている

Ⅲ. 原稿の作成

- 1 **原稿枚数**：総説，原著論文，研究資料，調査報告における原稿は，一篇につき，表紙を除いた本文（図表，脚注，文献を含む）が，**刷り上がり10頁以内（おおよそ400字詰原稿用紙で30枚）**を原則とします．評論等の原稿は，刷り上がり1頁（400字詰め原稿用紙3枚程度）であり，抄録は不要です．
- 2 **刷り上がりの体裁**：一篇の原稿は**表紙部分**とそれを除く**本文以降の原稿**からなり，その出来上がりの体裁は，表紙部分が**B 5 版 1 段組み**，本文以降の原稿が**B 5 版 2 段組み**です．
- 3 **表紙の内容とその提出書式**

A 原稿内容

- ① 和文題目と著者名
- ② 英文題目と著者名
- ③ 英文抄録（300ワード以内）
- ④ 英文のキーワード（各3-5語）
- ⑤ 和文のキーワード（各3-5語）
- ⑥ 和文所属機関名，同住所と郵便番号
- ⑦ 英文所属機関名および同住所と郵便番号

B 提出書式

上記内容をその順序にしたがってワードで作成し，ファイル名（表紙）を明記して提出して下さい．提出先はIV-1（9ページを参照してください）．この表紙部分については，書式統一のための編集作業を編集委員会でを行います．

- 4 **表紙に関する留意点**

- A **題目**：和英両文ともに研究の内容を的確に表現していることが必要です。副題をつける場合には、コロン（:）で続けて下さい。英文タイトルの最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字にして下さい。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とします。
- B **欧文抄録**：欧文抄録は、**300語以内**（ただし1語はおよそ5音節）とします。原則として、研究の目的（意図、問題）、方法（手順）、結果の概要、および結論を簡明に記述して下さい。ただし、必ずしも和文抄録の逐語訳である必要はありません。
- C **キーワード**：3 - 5 語の英文と和文のキーワードをそれぞれ記載して下さい。論文の内容や特色を的確に示し、検索に役立つようなものを選んで下さい。
- D **所属機関名と住所**：所属機関名と著者、共著者ともに右肩に小数字をつけ、脚注に記載して下さい。その際、和欧両文とも省略せずに正式名称を書いて下さい。
- ① 大学の場合は、学部名を明記して下さい。大学院生の場合には研究科名も明記して下さい。
 - ② 官公庁、民間団体の場合は、部課名まで記入して下さい。
 - ③ 寄稿後所属変更した場合は、著者校正の際に変更後の所属を（ ）で脚注に付記して下さい。
- 5 **本文以降の原稿内容**：本文テキスト、図表、謝辞、注一覧、文献一覧等からなります。
- 6 **本文以降の原稿の提出書式（サンプルを参照）**

A オフセット印刷

図表、写真等を著者が適切に組み入れ、そのままオフセット印刷ができる状態にして、ワードとPDFファイルの両方で提出して下さい。「本文以降の原稿」は、図表等が判読しづらいといった特別な事情がない限り、編集委員会による編集・校正を行いません。

B ページレイアウト

- ① B5サイズ縦置き**の2段組みとし**、2段組み間のスペースは6mmです。
- ② 余白（マージン）は、上:27mm 下:25mm 左: 19mm 右: 18mm です。
- ③ **ページ番号は、中央下に挿入して下さい**(全篇の編集作業段階で通し番号をふります)。

C 使用字体

- ① **大見出し**(目的、方法など)は**ゴシック体の10ポイント**を使用し、中央位置に置き、その前後に1行改行を入れて下さい。
- ② 本文内に用いられる**小見出しは、ゴシック体の9.5ポイント**です。
- ③ **本文テキストは明朝体の9.5ポイント**で書いて下さい。
- ④ **図表の番号、タイトル、説明、脚注等には、明朝体8ポイント**を用い、なお、**図表番号は太字**にして下さい。
- ⑤ **注記および文献の一覧には、明朝体8ポイント**を用いて下さい。
- ⑥ **謝辞等を記載する場合には、明朝体8ポイント**を用いて下さい。

- D 使用プリンター（郵送の場合）
レーザープリンター（解像度300以上）で印刷して下さい。

7 本文の表記に関する留意点

A 特殊字体

- ① **ゴシック**：ゴシックは見出し語のみに使用します。本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさけて下さい。
- ② **イタリック**：次の場合にはイタリック字体を指定することができます。引用の場合などを除いて、本文中の欧語を強調するためにイタリック字体を使用することはしないで下さい。
 - 1) 数式中の数を表わす文字
 - 2) 数値や量を表わす文字
 - 3) 統計法に用いられる記号
 - 4) 動物・植物の学名
- ③ **アンダーライン**：文意を強調するためのアンダーラインは原則として用いないで下さい。

B 符号

- ① **ピリオド（.）およびコンマ（,）**：終止符はピリオド，また語句の切り目はコンマを用います。
- ② **黒丸（中黒）（・）**：相互に密接な関係にあつて，一体となる文字や語句などを結ぶ際には黒丸（・）を用います。アルファベット文字を用いた用語には，通常，黒丸は使えません。
〔例〕 被験者 Y・K → Y. K.
- ③ **ハイフン（-）**：これは対語・対句の連結，合成語，頁の表記に用い，半角とします。
- ④ **ダッシュ（—）**：1字分のダッシュ（—）は期間や区間を示すのに用います。（～）は原則として用いません。2字分のダッシュ（——）は，注釈的な説明をするのに用います。
- ⑤ **引用符**：和文の場合には「」，欧文の場合には“ ”を用います
- ⑥ **コロン（:）**：副題，説明，引用文などを導く場合に使います。
- ⑦ **省略符（…）**：引用文の一部あるいは前後を省略する場合は，和文の場合には3点リーダー（…），欧文の場合にはほ下付きの3点リーダー（...）を用いて下さい。
- ⑧ **数字**：数を表示する場合は，原則としてアラビア数字を用いて下さい。

- C **単位**：計量単位は原則として，国際単位系（SI）とします。国際単位の参考資料について，下記の日本規格協会迄にお問い合わせ下さい。小冊子や図書（有料）が多数用意されています。（財）日本規格協会 東京都港区三田3-13-12 電話03（3583）8001

- D **略語**：論文中にしばしばあらわれてくるため，著者が便宜的に省略して用いる語などは，初出時に略さずに明記し，（以下「………」と略す）と添え書きをしてから，以後その略語を用いるようにして下さい。

E 引用：論文中で文献を引用する場合には，基本的な文献を厳選し，正確に引用して下さい．引用した文献はすべて文献表に掲載して下さい．

- ① 本文中で**文献の一部を直接引用**するときは，引用した語句または文章を和文の場合は，「 」，欧文の場合は“ ”でくくります．その後，()で著者の姓(family name)を記入し，右肩に片かっこつきで文献表と一致する番号をつけます．

[例]

- 1) 「パンとバラの時代のスポーツ」(長洲²⁴)という標語は…
- 2) “interpretive cultural research”(Harris⁵)の視点…

- ② **著者が2名の場合**ときには，和文では中黒(・)，欧文の場合にはandを用いてつなぎます．ただし著者が3名以上の場合は，ファースト・オーサーの姓の後に和文の場合にはほか，欧文の場合には et al.を用います

[例]

- 1) 「……」(竹下・原宿³⁵)という結論は……
- 2) “……”(Park and Harris²⁵)という考え方には…
- 3) 「……」(井頭ほか¹⁵)という結果には……
- 4) “……”(Harris et al.¹⁴)の視点は……

- ③ 同じ論文や**文献を2回以上引用**する場合には，文献表にはページ数を記入しないで，本文中に著者とページ数を()をつけて記入します．

[例]

- 1) 「……」(竹下・原宿³⁰p. 21)という仮説は……
- 2) “……”(Bloom¹ pp. 101-102)という主張には……

- ④ 本文中で**参照した文献**を明記する場合には，次のような形で著者名を記入します．文献が3点以上連続する場合はハイフン(-)でつなぎます．連続番号ではない一連の文献の区切りにはコンマを用います．

[例]

- 1) 岸ら¹⁶によれば……
- 2) 宇田川³³⁻³⁵による一連の研究では……
- 3) 渋谷・竹下^{27, 29}によれば……
- 4) Park and Harris²⁵ およびButt²の見解は……
- 5) Bloom et al.¹によれば……
- 6) マカルーン(MacAloon)^{17, 18}によれば……
- 7) Harris^{5-7, 9, 11-13}の一連のフィールドワークでは……

- ⑤ **翻訳書の著者を表記**するときは，カタカナ表記とし，初出時に()で欧文表記をつけ加えます．ただし，慣用的にカタカナ表記されている著者名の欧文表記は不要です．その判断基準は執筆者によります．なお，巻末の文献表に翻訳書の原典の書誌データをく>で記入するかどうかはこの文中の表記と対応させます．

[例]

- 1) マイネル(Meinel)²³は…… このマイネルの概念……
- 2) プラトン²⁶の教育論によると…

- ⑥ 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記⑤に従って記入します。原著は欧文表記とします。

[例]

1) マカルーン (MacAloon)¹⁸⁾によれば……。しかしながら、マカルーン¹⁷⁾のクーベルタン論では……。一方、MacAloon²⁰⁻²²⁾の一連の著作では……

8 図表の作成に関する留意点(サンプルを参照)

A 全般について

- ① 図表とその説明は、英文抄録内容の理解を助けるために、**欧文にすることが望ましい**。特に同一論文内での和文と欧文の併用はさけて下さい。
- ② 図表内の文字、凡例用シンボルやラインがシャープであり、正確に理解されるように作成して下さい。判別が難しい図表については、編集委員会から訂正をお願いすることもあります。
- ③ 図表全体のサイズ(拡大・縮小)は、「**読者にわかる**」ということを配慮して決定して下さい。ただし、余白部分にはみ出ないように、本文枠内におさまるようにして下さい。
- ④ 図表の配置は本文内容に近接した、**適切な位置**に置いて下さい。
- ⑤ 図表、写真は**白黒**とします。

B 図について

- ① 各論文内の図におし番号をつけ、図説を図の下につけて下さい。
- ② 図番号、図説の書式はサンプルを参照して下さい。
- ③ 装置や実験風景等の写真等はオフセット印刷では見えにくくなるため、線画に置き換えて下さい。
- ④ 略字や統計的検定結果などの補足説明は、図説の後に入れて下さい。

C 表について

- ① 各論文内の表におし番号をつけ、表のタイトルを表の上につけて下さい。
- ② 表番号、表のタイトル、表の脚注の書式はサンプルを参照して下さい。
- ③ 略字や統計的検定結果などの補足説明は、表の脚注として、表の下に入れて下さい。

- 9 注に関する留意点：本文あるいは図表で説明するのが適切でなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときだけに、注を用います。

- ① その数は最小限にとどめて下さい。
- ② 注をつける場合は、文中のその箇所の右肩に、注¹⁾、注²⁾のように片かっこで通し番号をつけます。
- ③ これらの注記は、本文と巻末の文献との間に、番号順に一括記載をします。注記の大見出し語は「注」です。

10 文献一覧作成に関する留意点

- A 記載順：筆頭著者名(姓)のアルファベット順とし、とおし番号を付け箇条書きにしてください(サンプルを参照)。
- B 書誌データ：出典に基づいて正確に記載してください。通常、書誌データには、著者名・発行年・タイトル [題名・書名] ・出版社・ページ が含まれます。
- C 定期刊行物(雑誌)の表記：定期刊行物の表記は、著者名(発行年) 論文名. 誌名巻(号)：ページ. の順とします。

- ① 著者名が共著の場合：和文の場合には中黒(・)，英文の場合には and で続けます。ただし英文で3人以上の場合にはコンマ(，) でつなぎ、最後の著者の前だけにandをいれます。発行年は著者名のすぐ後の() 内に西暦で記入し、論文名と区切ります。省略記号としてのピリオドのあとは1文字分のスペースをあけません。

[例]

- 1) 原宿健夫・岸 康夫・渋谷太郎 (1990)
- 2) Hall, M. A., Cullen, D., and Slack, T. (1989)
- 3) Hall, M. A. and Slack, T. (1989)

- ② 論文名：論文名の最後はピリオド(.) を打ちます。欧文では、題目の最初の文字だけを大文字にします。

- ③ 誌名：原則としてその雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従います。それ以外は省略しないで下さい。

- ④ 巻号およびページ：巻数の後にコロン(:) をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン(-) で結び、最後にピリオド(.) を打ちます。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を() で巻数の後に示します。

[例]

- 1) 立石窓彦 (1990) 微小血管における赤血球からの酸素放出速度の測定—装置の開発とラット腸間膜での測定—. 日本生理誌 52 : 23—35.
- 2) Harris, J.C. (1989) Suited up and stripped down: Perspectives for sociocultural sport studies. *Sociology of Sport Journal* 6: 335—347.
- 3) Chang, H. K. (1984) Mechanisms of gas transport during ventilation by high-frequency oscillation. *J. Appl. Physiol. Respirat. Environ. Exercise Physiol.* 56: 553—563.
- 4) Neumann, M. and Eason, D. (1990) Casino world: Bringing it all back home. *Cultural Studies* 4(1): 45—60.
- 5) 関 修 (1990) ストレスを癒すフィジカル・エクササイズ. *イマージ* 1 (6): 172—181.

- D 単行本の表記：書き方の原則は定期刊行物の項に従って下さい。同じ文献を2回以上引用する場合には、文献表にページ数を記入しません(本文中に引用ページを明記します)。

- ① 単行本全体を引用する場合：単行本の表記は、著者名（発行年）書名（版数，ただし初版は省略）．発行所：発行地，引用ページ（p. またはpp.）．の順とします．なお，引用箇所が限定できない場合はページを省略します．また，編集（監修）書全体の場合には，編，監，あるいは編著と表記します．英文では，(Ed.)，または(Eds.)をつけます．

[例]

- 1) 保健体育科学研究会編（1981）保健体育教程（新訂版）技術書院：東京，pp. 17-22.
- 2) Butt, D.S.(1987) Psychology of sport: The behavior, motivation, personality, and performance of athletes (2nd ed.). Van Nostrand Reinhold: New York, pp. 12-13.
- 3) 山口昌男編（1987）越境スポーツ大コラム．TBSブリタニカ：東京.

- ② 単行本の一部を引用する場合：単行本における一部の論文や章の表記には，著者，論文名（章の題名）の後に編集者名と編，監，あるいは編著などにつけます．英文の場合は，In:をつけたあと編集（監修）者名と(Ed.)または(Eds.)をつけます．

[例]

- 1) Moony, J.(1983) The Cherokee ball play. In: Harris, J.C. and Park, R.J. (Eds.) Play games and sports in cultural contexts. Human Kinetics: Champaign, IL. pp. 259-282.
- 2) 新島龍美（1990）日常性の快樂・市川浩ほか編 技術と遊び．岩波書店：東京，pp. 355-426.

- ③ 翻訳書の場合：原著者の姓をカタカナ表記し，その後にはコロンの(:)をつけて訳者の姓名を記入します．訳者が3名以上の場合は，:…ほか訳と省略して筆頭訳者だけ記入します．欧文の翻訳書の場合，原著の出版年を< >で付記します．翻訳者の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に< >内に付記します．

[例]

- 1) ブルーム：菅野盾樹ほか訳（1988）アメリカン・マインドの終焉．みすず書房：東京，pp. 21-26. <Bloom, A. (1987) The closing of the American mind. Simon & Schuster: New York. >
- 2) Luria, A.R.: Solotoroff, L. Trans. (1969) The mind of a mnemonist. Avon Books: New York, pp. 12-15. <Original work published in Russian 1965. >

- 11 欧文原稿に関する留意点：欧文原稿や欧文抄録の適正については，著者の責任とします．作成時には，特に次の点に留意して下さい．用紙の大きさ，上下左右の余白，行数などは上記規定に従って下さい．

A 全体表記

- ① 文章の初めおよび改行の際には5字分あける

- ② 句読点としてのコンマのあとは1字分，ピリオドのあとは2字分をそれぞれあける
- ③ 省略記号としてのピリオドのあとはあけないこと
- ④ 動詞の時制に特に注意する
- ⑤ 計量単位は，原則として国際単位系（SI）とする
- ⑥ 和文の文献を欧文で記述した場合には邦字の著者名とタイトルを併記し，これらが和文であることを明示すること。

[例]

Ministry of Education (1968) Current status of physical education and sport in the world. Japanese Government Printing Office: Tokyo, p.183. <in Japanese: 文部省，外国における体育・スポーツの現状>.

- 12 チェックリストとその他の留意事項**：原稿を提出される前に別紙のチェックリストで再確認し，そのチェックリストもCDおよび原稿とともにご提出下さい。また本誌は「体育学研究」投稿規程に従っていますので，最近の掲載論文を参照して，原稿の作成にあたって下さい。

IV. 原稿送付と発刊までの予定

1 原稿送付

郵送の場合：チェックリスト 1 部，CD（表紙：ワード、原稿：ワード+PDF のデータ）を下記に送付下さい。

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
奈良女子大学生生活環境学部 スポーツ科学教室
研究年報編集委員会

メールの場合：以下のアドレスにチェックリスト（ワードまたはPDF），表紙（ワード），原稿（ワード+PDF）を添付して下記に送付下さい。 研究年報編集委員会 rjssnwu@gmail.com

- 2 原稿締切り：各年度の3月と9月，編集委員会が定めた締切までに送付して下さい。締切はスポーツ科学教室ホームページなどで告知します。
- 3 査読システム：投稿された原稿に対して，編集委員会において査読者を決定し，査読を行いません。査読は本学の現教員の他，関連する領域の外部研究者に依頼することがあります。査読の結果，再査読なしの判定が得られた場合は，所定の書式に従った原稿であることが確認された後，掲載が決定します。補筆・修正の必要が生じた場合は，再投稿の後，編集委員会が掲載を判断します。
- 4 編集校正：表紙については編集委員会で行います。最終投稿時に上記Ⅲ 3

(表紙の内容とその提出ファイル) に従い、ファイルを提出してください。
本文以降の原稿は著者責任となっていますので、校正はありません。

- 5 **本誌発行日**：電子ジャーナルとして5月，11月に発刊します。奈良女子大学学術情報リポジトリに搭載し，電子公開を行います。
- 6 **別刷り**：別刷りは作成しません。

《チェックリスト》 原稿を提出する前に下記項目をチェックしてください。

投稿論文題目 : _____

筆頭執筆者名 : _____

下記について同意しますか？

本誌に掲載された論文の著作権は編集委員会に帰属します。ただし、著者本人による転載は妨げません。また、著者は、掲載された論文が奈良女子大学学術情報リポジトリに登録され、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開されることを了承するものとします。

表紙ファイルには下記内容が含まれていますか？

- 和文題目と著者名および英文題目と著者名
- 英文抄録 (300 ワード以内)
- 英文キーワード(3-5 語)および和文キーワード(3-5 語)
- 和文の所属機関名, 住所, 郵便番号
英文の所属機関名, 住所, 郵便番号

本文以降の原稿は, B5 サイズ 10 枚以内ですか？

- 余白サイズは正しいですか
- 字数と行数(22 字 x 41 行, 2 段組み)はいいですか
- 大見出しの字体はゴシック体(10 ポイント)で, 中央位置にありますか
- 大見出しの前後は 1 行の改行がはいつていますか
- 本文は明朝体 9.5 ポイントになっていますか
- 注一覧, 文献一覧, 図表等は明朝体 8 ポイントになっていますか

図表はシャープですか？

- 図表の通し番号がついていますか
- 図番号, 図説の位置(図の下)はいいですか
- その字体は, 明朝体 8 ポイントになっていますか
- 表番号と表タイトルは明朝体 8 ポイントになっていますか
- 図表番号は太字になっていますか
- 図表の脚注は付け忘れてはいませんか
- 図表が余白にはみ出していませんか？

注はとおし番号順に一括記載されていますか？

- 文献の書式は、手引書どおりに統一されていますか？
 - アルファベット順になっていますか
 - 文献番号がついていますか
 - 全ての文献が記載されていますか
 - 英文著者名等に間違いはありませんか
 - 各文献の最後にピリオドがついていますか

- 提出するファイルは、表紙はワード、本文はワード+PDF で作成されていますか？

以上